第 48 回渡良瀬遊水地野鳥観察会定例会資料

（平成 26 年 9 月 20 日）

前回（6 月 21 日）はアオジの繁殖活動（囀り）を観察しました。近づくと近くのブッシュに逃げ込みますが、人が去ると同じ木の梢に戻って囀りを繰り返していました。昨季は 4 箇所で 5 羽の囀りが確認されたのですが、今季は与良川の水門南東方向に 1 羽だけでした。渡良瀬遊水地にとって繁殖期のアオジの存在は貴重です。今後も動向に注意が必用です。

５月に調査したオオセッカの生息（繁殖）調査報告書を配布します。囀るオスの確認数は１５羽でした。オオセッカの保護のために継続した調査は重要です。ご苦労様でした。

繁殖期の囀るオオセッカの確認数は、2010 年（平成 22 年）4 羽、2011 年（平成 23 年）7 羽、2012 年（平成 24 年）13 羽、2013 年（平成 25 年）21 羽と増加してきたが、今季は 15 羽に減少してしまいました。

また、ここ 3 年間の、道路の東西に分けて囀り数の差を見ると、2010 年（平成 22 年）は東側のみに 4 羽。2011 年（平成 23 年）東側に 5 羽、西側に 2 羽。2012 年（平成 24 年）は東側に 8 羽、西側に 4 羽、その他 1 羽。2013 年（平成 25 年）は東側に 8 羽、西側に 13 羽。2014 年（平成 26 年）は東側に 8 羽、西側に 4 羽、その他 3 羽です。以上から、2013 年（平成 25 年）を除き、傾向として調査面積が西側より狭い東側に生息（繁殖）するものが多いと言えます。

何故でしょう？オオセッカは繁殖環境の選択幅の狭い野鳥です。好みはヨシも生えているスゲなどの草丈の低い植物が優先する草原です。元々そのような植生が渡良瀬遊水地にあってそこに新たにオオセッカが進出してきたのか、ヨシ優先であった渡良瀬遊水地の草原に何らかの原因でスゲなどが優先する草原が出現し、そこにオオセッカが進出してきたのかを考えておくことは、これからの渡良瀬遊水地のオオセッカの保護にとって重要になってくると思います。

なお、2013 年（平成 25 年）は 2 ヵ年行なわれなかったヨシ焼きが再開された年で、更に 5 月 3 日に局地的な大雨があり、西側の繁殖地は 2 ヶ月近く水浸しになっていました。そのことからヨシ焼きはオオセッカの生息（繁殖）に影響が無く、間接的には植物遺体が堆積して将来的に乾燥化（湿地の陸化→スゲなどの消滅）を防ぐものであり、スゲは水位にとても敏感ですので、2013 年（平成 25 年）の局地的な大雨が西側の繁殖地をスゲ優先の草原に一時的に変えたということかもしれません。内陸湿地で繁殖する渡良瀬遊水地のオオセッカに付いて、纏めておくことが必要だと思います。

＊真瀬さんが「駒羽根新写真の会」主催の写真展に、アカショウビン、サンコウチョウの求愛給餌、カイツブリの親子、フクロウを出品。遊鳥会主催の写真展をやってみませんか？

鳥便り　＊4 月 24 日に木村さんが、中央エントランス南東で、「チヨチヨビー、チヨチヨビー」と囀るセンダイムシクイを見ています。「焼酎いっぱい、ぐいー」と聞こえると言う人もいます。渡良瀬遊水地での初確認で、山地で繁殖する夏鳥です。ここは移動の途中に立ち寄る野鳥にとっても、重要な中継地なのでしょう。

9 月 15 日に関口さんが第 2 調節地から第 1 調節地に向うチュウヒを観察。

（アカガシラサギ・7/15・真瀬）

（ムラサキサギ・9/11・小倉）

（セイタカシギ・８月・真瀬・野木）

（セッカ・8/1・真瀬）

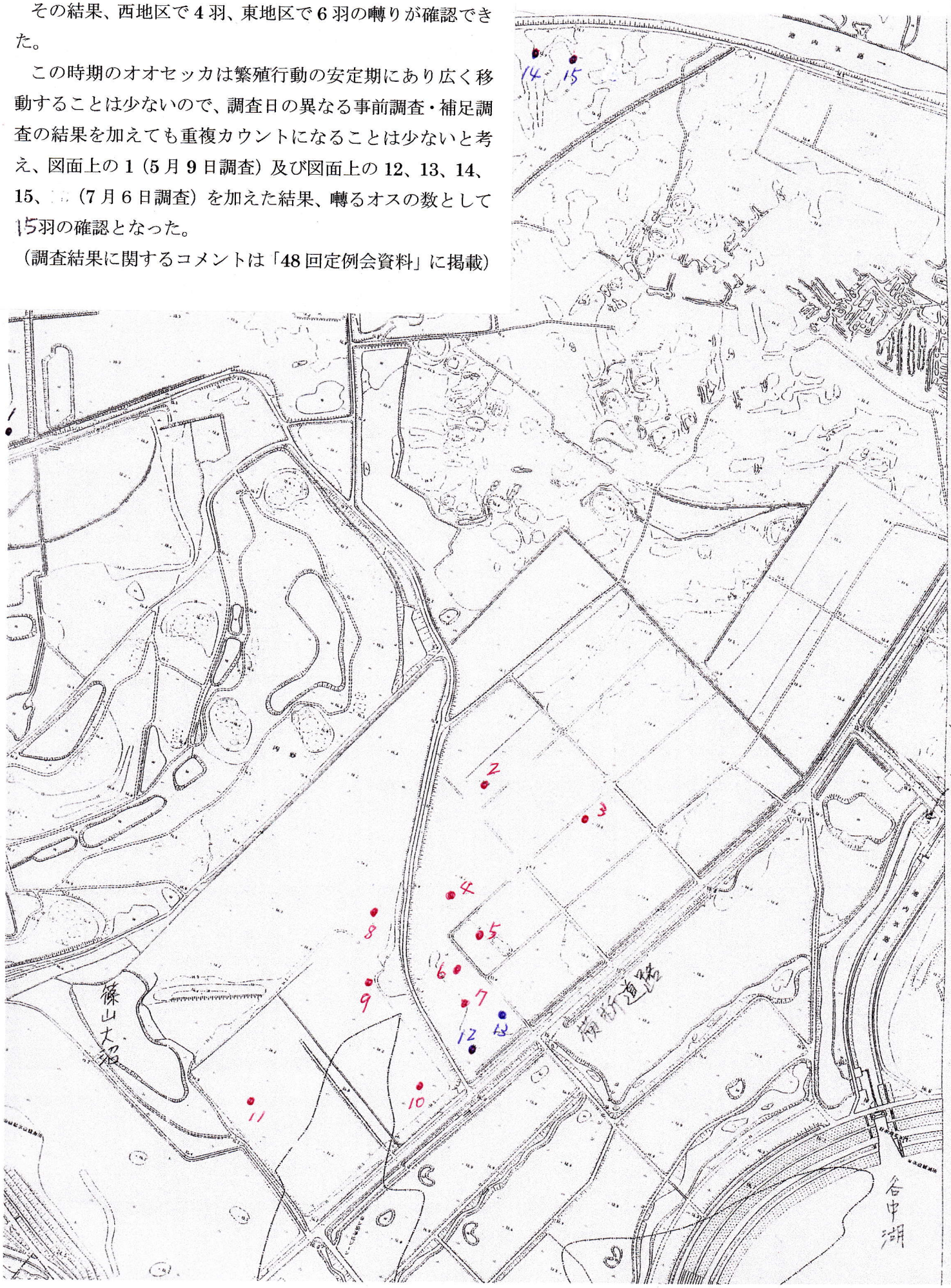
今回はねぐら入りするツバメを見ます。今季の経過は、9 月 2 日（ヨシ原浄化施設東端）約 3 万羽（一色）。9 月 7 日同所で数万羽（関口）。9 月 12 日同所にツバメの群れいない（一色）。9 月 15 日北水門西の展望台付近に約 1000 羽（五十畑）。9 月 16 日同所付近で約 1000 羽（木村）。さあ、今日はいかがでしょう！（一）

オオセッカの生息８繁殖）調査報告

（平成26年5月17日・午前9時～12時・晴）

横断道路からゴルフ場にいたる道路を東西に分けて一周し、囀りと目視によってカウントした。

その結果、西地区で4羽、東地区で6羽の囀りが確認できた。

この時期のオオセッカは繁殖行動の安定期にあり広く移動することは少ないので、調査日の異なる事前調査・補足調査の結果を加えても重複カウントになることは少ないと考え、図面上の1（5月9日調査）及び図面上の12、13、14、15、（7月6日調査）を加えた結果、囀るオスの数として15羽の確認となった。

（調査結果に関するコメントは「48回定例会資料」に掲載）